

川崎町橋梁個別施設計画



「柏木橋（1971年架設）」

令和5年1月
令和8年5月（見直し）



川崎町役場 事業課

目 次

1. 橋梁個別施設計画の背景	1
2. 橋梁個別施設計画の目的	2
3. 橋梁個別施設計画の対象橋梁	4
4. 健全性の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針	10
5. 修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針	11
6. 新技術の活用に関する基本的な方針	12
7. 橋梁個別施設計画の流れ	13
8. 橋の健全性の評価と劣化予測	14
9. 部材健全性の考え方	15
10. 管理水準の設定	16
11. 措置優先順位の設定	17
12. 工事費算出と対策工法選定の方針	19
13. 概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替時期	20
14. 橋梁個別施設計画による効果	25
15. 計画策定担当者及び意見聴取した学識経験者等	27
16. 参考文献	28
17. 用語の定義	28

1. 橋梁個別施設計画の背景

川崎町が管理する橋梁は、令和4年度現在で計131橋架設されています。

このうち橋歴が分かる計79橋のうち建設後50年を経過する橋梁は、約12%を占めており、20年後の令和24年度には約78%程度に増加します。この傾向は橋歴不明の橋梁を含めた場合も同様以上の推移になると予想されます。

これらの高齢化を迎える橋梁群に対して、事後保全的な維持管理を適用すると、橋梁の修繕・架替に要する費用の増大で修繕対応が困難になると予測されます。

そのため、より計画的な橋梁の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的に橋梁を維持していくための取組が不可欠です。

※橋歴不明の計52橋の建設年次は、町道認定を行った1981年に定義しています

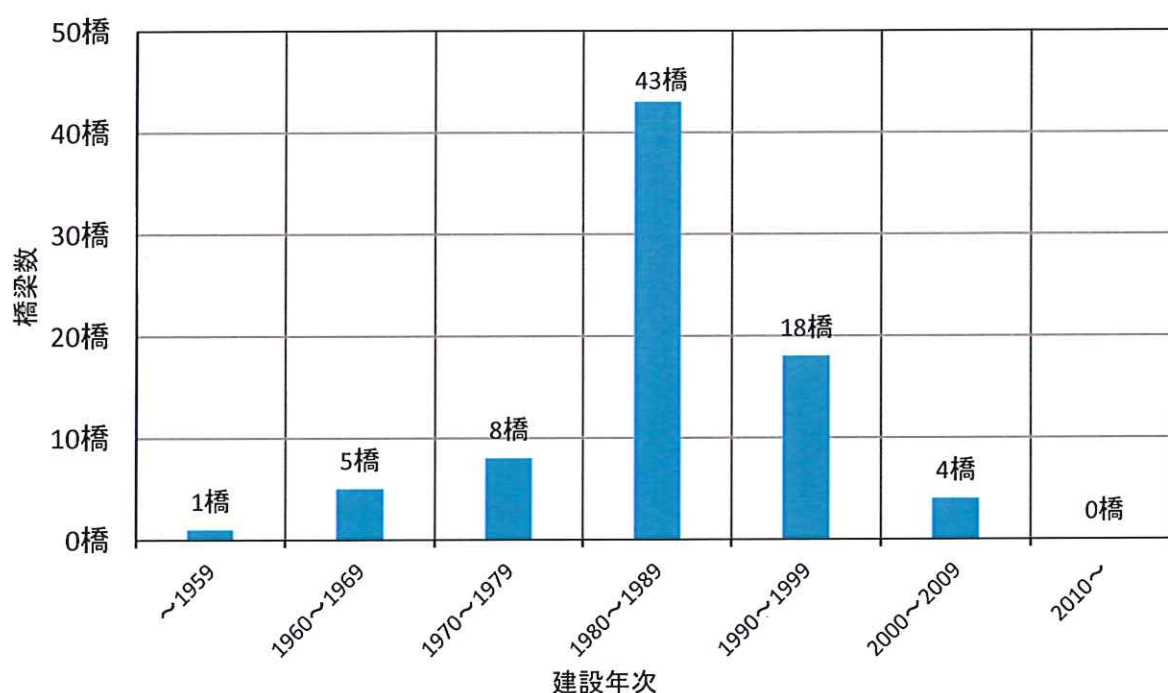


図1.1 建設年次ごとの橋梁数

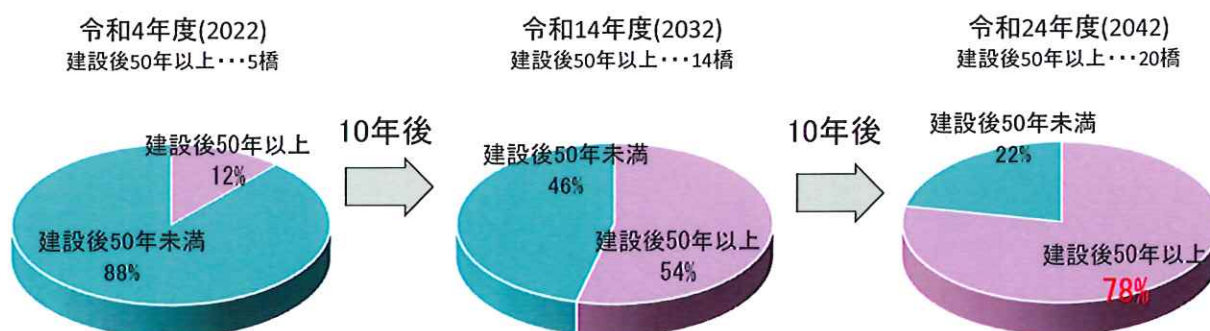


図1.2 建設後50年以上経過した橋梁の割合

2. 橋梁個別施設計画の目的

川崎町では、平成24年度の橋梁個別施設計画で維持管理の手法を従来の事後保全型から予防保全型へ転換し、平成30年度の修繕計画の見直しを経て限られた財源の中で効率的に修繕し、橋梁の健全性を向上させました。

現在では健全性Ⅲの橋梁は6橋まで減少しています。

しかしながら、橋梁の老朽化は年々進展しており、引き続き計画的な予防保全の対応が求められています。

今後も将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図る必要があるため、修繕対応の履歴を整理のうえ、橋梁個別施設計画の更新策定を実施します。

※H24の健全性は、遠方目視点検のため、H30以降（近接目視点検）と差異があります。

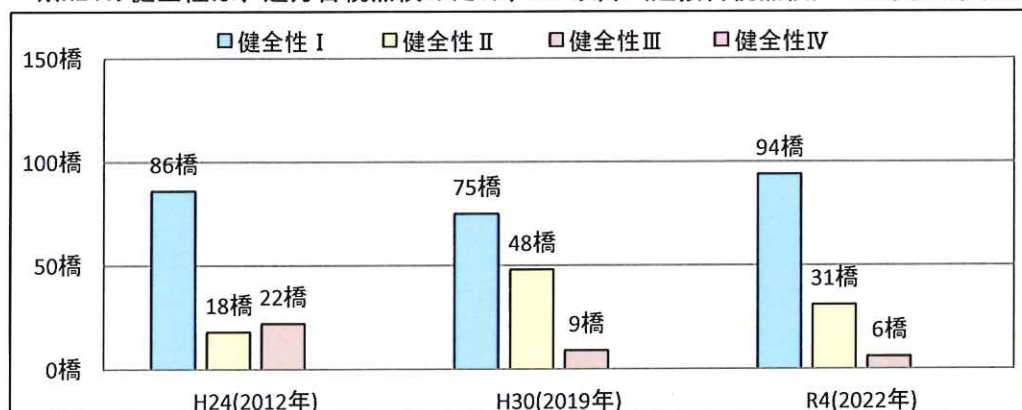


図2 健全性の推移

橋梁個別施設計画の更新策定は以下の効果を得ることを目的とします。

(1) 道路交通ネットワークの安全性・信頼性の確保

全ての管理橋梁の健全性を把握のうえ、損傷・劣化が軽微な段階で対策を実施する予防保全的な維持管理によって、橋梁の健全性を常に管理水準以上となるように保つことで、町内の道路ネットワークの安全性と信頼性を確保します。

- ・ 定期点検による管理橋梁の健全性の把握
- ・ 損傷度と架橋条件等を考慮した対策優先順位の設定
- ・ 計画的な維持管理の実施

(2) 維持管理事業の透明性・説明責任の向上

橋梁個別施設計画に修繕措置の方針や方策を明示することで、維持管理の透明性と説明責任の向上を図ります。

(3) 維持管理の持続性の向上

橋梁個別施設計画に沿った計画的かつ予防保全的な維持管理を徹底することにより、全体的な事業費の大規模化および高コスト化を回避し、長期的な維持管理費の縮減を図ります。

今後の維持管理は、工事の単年度集中を回避しつつ、予算に見合った持続性のある事業計画とします。

平成24年度に橋梁長寿命化修繕計画を策定後、橋梁定期点検、補修設計、修繕工事を計画的に進めてきました。

表2 修繕対応の状況

	修繕済（橋）									修繕予定（橋）				
年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
補修	1	1	3	5	5	-	-	-	5	-	2	2	-	1
更新	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	24橋									5橋				

点検・調査	橋梁点検車	近接目視	詳細調査
			

扇ノ前橋の修繕対応	補修前	補修後	主な補修内容
	 	 	・ 上部工 断面修復 ・ 下部工 縦壁補強工

八熊橋の修繕対応	補修前	補修後	主な補修内容
	 	 	・ 橋面工 橋面防水 舗装打替 伸縮装置取替 ・ 上部工、下部工 断面修復 ひびわれ充填 ひびわれ注入 表面含侵工

3. 橋梁個別施設計画の対象橋梁

表3.1 橋梁個別施設計画の対象橋梁

	1級町道	2級町道	その他町道	合計
全管理橋梁数	20	27	84	131
うち計画の対象橋梁数	20	27	84	131
うち平成24年度計画策定橋梁数	21	26	79	126
うち平成30年度計画策定橋梁数	22	27	83	132
うち令和4年度計画策定橋梁数	20	27	84	131

橋梁個別施設計画の対象：

川崎町が管理する全ての橋梁

※ 133 一本松橋 → 農道から町道へ移管 増

32 真崎橋2号橋 → 町道廃止 減

50 0001-1号橋 → 橋長2m未滿 減

※ 対象橋梁の増減は台帳整理や町道廃止によって生じている

橋梁形式の割合（計131橋）

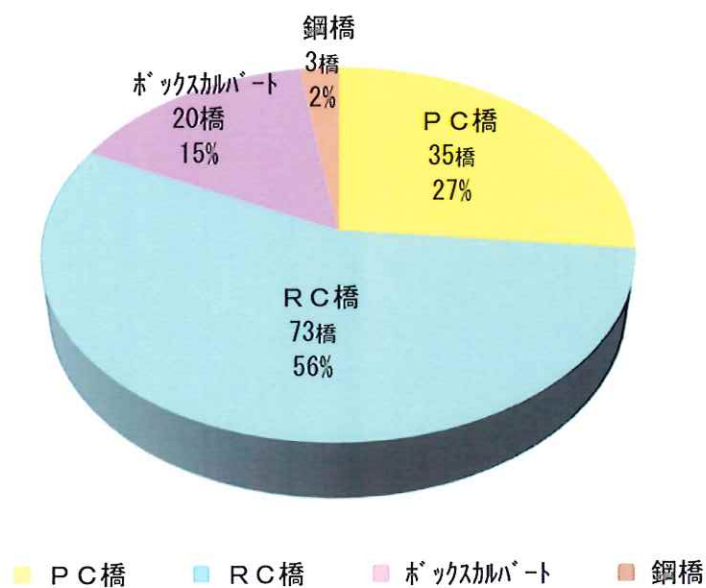


図3 橋梁形式の分類

橋梁諸元の一覧 (5 / 5)

健全性 I : 健全 II : 予防保全段階 III : 早期措置段階 IV : 緊急措置段階										
番号	橋梁名称	路線名	架設年	橋長 m	全幅員 m	橋梁の種類	所在地	最新 点検年	橋梁の 健全性	次回 点検年
1	畑田橋	変電所成谷線	(1981)	2.50	8.30	RC床版	大字川崎	R6	I	R11
2	0070-1号橋	太田鮎返線	1982	3.00	6.70	RC床版	大字川崎	R6	I	R11
3	馬小淵上橋	川崎三井線	1993	7.80	7.20	プレテン床版	大字川崎	R6	I	R11
4	1023-1号橋	岩鼻内山線	1991	10.90	5.50	場所打ボックス	大字池尻	R6	II	R11
5	馬小淵橋	雁喰馬小淵線	1997	12.20	7.20	プレテン床版	大字川崎	R6	I	R11
6	丸山橋	西本町丸山線	1962	13.00	4.60	RCT桁	大字川崎	R6	I	R11
7	吉原橋	小大山旧道線	(1981)	9.60	7.20	プレテン床版	大字川崎	R6	I	R11
8	1092-1号橋	大峰小学校線	(1981)	8.00	5.60	場所打ボックス	大字川崎	R6	III	R11
9	119-1号橋	口ヶ坪線	1985	7.80	4.00	鋼H桁	大字川崎	R6	II	R11
10	吉原橋 (2号)	本町米田線	1991	7.90	6.70	プレテン床版	大字川崎	R6	I	R11
11	新吉原橋	本町米田線	1990	14.50	6.70	プレテン床版 プレテンI桁	大字川崎	R6	II	R11
12	1172-1号橋	本町駐車場内線	1993	7.15	6.00	RC床版	大字川崎	R6	I	R11
13	黒木下橋	荒平方河原線	1998	5.90	7.50	プレキャストボックス	大字安真木	R6	II	R11
14	黒木橋	荒平方河原線	1998	9.20	8.35	プレキャストボックス	大字安真木	R6	I	R11
15	八熊橋	八熊寺ノ谷線	1983	14.40	5.00	プレテン床版	大字安真木	R6	II	R11
16	馬場橋	貴船大井手線	1983	14.10	5.00	プレテン床版	大字安真木	R6	I	R11
17	寺の谷橋	貴船後川内線	1977	13.00	5.80	プレテン床版	大字安真木	R6	II	R11
18	水車橋	貴船後川内線	(1981)	11.00	4.80	鋼I桁	大字安真木	R6	II	R11
19	神橋	大井手チエ線	1979	14.70	6.50	プレテンI桁	大字安真木	R6	I	R11
20	2082-1号橋	十郎口黒木線	1982	8.00	4.70	RCT桁	大字安真木	R6	I	R11
21	第2号橋	十郎口黒木線	1965	8.00	3.50	RCT桁	大字安真木	R6	I	R11
22	第3号橋	十郎口黒木線	1966	8.55	3.50	RCT桁	大字安真木	R6	II	R11
23	2082-5号橋	十郎口黒木線	1982	8.65	7.45	RC床版	大字安真木	R6	I	R11
24	2098-1号橋	高見団地成谷線	1983	7.00	4.80	RC床版	大字川崎	R6	I	R11
25	2115-1号橋	小ヶ倉線	1985	7.30	4.50	RC床版	大字安真木	R6	II	R11
26	新屋橋	不動戸頃線	2004	9.47	6.70	プレテン床版	大字安真木	R6	I	R11
27	中村橋	田原後藤寺線	1993	34.40	8.20	プレテン床版	大字田原～大字池尻	R6	I	R11

橋梁諸元の一覧 (6 / 5)

健全性 I : 健全 II : 予防保全段階 III : 早期措置段階 IV : 緊急措置段階										
番号	橋梁名称	路線名	架設年	橋長 m	全幅員 m	橋梁の種類	所在地	最新 点検年	橋梁の 健全性	次回 点検年
28	冥加塚橋	西川馬ヶ鼻線	1983	19.63	7.50	プレテン床版	大字田原	R6	Ⅲ	R11
29	宮の前橋	西川東川線	1977	40.00	6.85	プレテンI桁	大字川崎	R7	I	R12
30	前川原橋	上豊州真崎線	1995	30.80	10.00	プレテン床版	大字安真木	R6	I	R11
31	新雁喰橋	川崎荒平線	1994	21.19	10.00	プレテン床版	大字川崎	R6	I	R11
33	坪池橋	戸井ノ口大豊線	1997	25.28	9.50	ポステン中空床版	大字田原	R6	Ⅱ	R11
34	住吉橋	太田鮎返線	1987	26.87	7.50	ポステンI桁	大字川崎	R6	I	R11
35	鮎返橋	東川鮎返線	1972	27.05	4.60	プレテン床版	大字川崎	R6	Ⅱ	R11
36	真崎橋	旧県道線	1927	30.00	6.40	RCT桁 鋼I桁	大字安真木	R6	Ⅲ	R11
37	柏木橋	上真崎宮ノ前線	1971	29.30	5.60	RCT桁 プレテン床版	大字安真木	R6	Ⅱ	R11
38	神乃前橋	神ノ前大出来線	1987	17.80	7.20	プレテン床版	大字田原	R7	I	R12
39	2号橋	水源池線	1971	25.10	4.60	プレテンI桁	大字田原～大字川崎	R7	Ⅱ	R12
40	新丸山橋	丸山楠本線	1991	16.50	6.70	プレテン床版	大字川崎	R7	I	R12
41	弓折陸橋	大峰宝町線	1988	17.20	7.30	場所打ボックス	大字川崎	R7	I	R12
42	西田原橋	合ノ本寺田線	1982	43.10	7.20	プレテン床版	大字田原～大字池尻	R7	I	R12
43	第2馬小淵橋	馬小淵打越線	1988	27.70	8.20	ポステン中空床版	大字田原～大字川崎	R7	I	R12
44	前牟田橋	前牟田橋石ヶ坪線	1982	29.80	7.20	プレテン床版	大字安真木	R7	I	R12
45	公門橋	公門小畑線	2003	27.70	5.20	ポステン中空床版	大字安真木	R7	I	R12
46	2066-1号橋	轡井手線	1979	19.50	5.20	プレテン床版	大字安真木	R7	Ⅱ	R12
47	酒屋渡橋	中組小畑線	2000	25.20	3.30	ポステン中空床版	大字安真木	R7	I	R12
48	上真崎橋	上真崎当時迫線	1993	31.90	7.20	プレテン床版	大字安真木	R7	I	R12
49	馬ヶ鼻橋	池尻小学校馬ヶ鼻線	1976	29.90	6.30	鋼I桁	大字位登～大字池尻	R7	I	R12
51	0001-2号橋	田原後藤寺線	(1981)	3.60	8.00	RC床版	大字池尻	R7	I	R12
52	0003-1号橋	岩鼻池尻駅線	(1981)	2.60	6.00	RC床版	大字田原	R7	I	R12
53	岩鼻橋	岩鼻池尻駅線	(1981)	4.05	15.30	RC床版	大字田原	R7	I	R12
54	岩鼻二号橋(0003-2号橋)	岩鼻池尻駅線	(1981)	2.15	5.90	RC床版	大字池尻	R7	Ⅱ	R12
55	0008-1号橋	奥谷島廻線	(1981)	2.50	6.60	RC床版	大字川崎	R7	Ⅱ	R12
56	共同橋	本町島廻線	(1981)	3.40	8.00	場所打ボックス RC床版	大字川崎	R7	I	R12

橋梁諸元の一覧 (7 / 5)

健全性	I : 健全	II : 予防保全段階	III : 早期措置段階	IV : 緊急措置段階
-----	--------	-------------	--------------	-------------

番号	橋梁名称	路線名	架設年	橋長 m	全幅員 m	橋梁の種類	所在地	最新 点検年	橋梁の 健全性	次回 点検年
57	吐合橋	本町吉原線	(1981)	2.70	5.10	プレキャストボックス	大字川崎	R7	II	R12
58	0012-1号橋	東豊西川線	(1981)	3.00	6.30	RC床版	大字川崎	R7	I	R12
59	小大山橋	米田東川線	1982	4.70	39.30	場所打ボックス RC床版	大字川崎	R7	II	R12
60	13-1号橋	米田東川線	1982	3.40	6.90	RC床版	大字川崎	R7	I	R12
61	0014-1号橋	上豊州真崎線	(1981)	2.70	11.10	プレキャストボックス RC床版	大字川崎	R7	I	R12
62	0014-2号橋	上豊州真崎線	(1981)	2.25	8.15	RC床版	大字川崎	R7	I	R12
63	0014-3号橋	上豊州真崎線	(1981)	2.40	6.10	RC床版	大字川崎	R7	I	R12
64	宮ヶ坪橋	小倉畔東麦田線	(1981)	3.80	5.50	プレキャストボックス	大字池尻	R7	II	R12
65	松ノ木橋	松ノ木後藤寺線	(1981)	3.00	4.95	RC床版	大字池尻	R7	I	R12
66	土田橋	鎮西原原方線	(1981)	2.55	6.30	場所打ボックス	大字田原	R7	I	R12
67	中田原橋	戸井ノ口大豊線	(1981)	3.70	12.80	プレキャストボックス RC床版	大字田原	R7	I	R12
68	0058-1号橋	田原西川線	(1981)	2.80	3.60	RC床版	大字田原	R7	I	R12
69	獅子場橋	芦毛永井線	1982	3.10	9.00	RC床版	大字川崎	R7	II	R12
70	小松ヶ池橋	米田上真崎線	1982	4.60	5.70	RC床版	大字川崎	R7	I	R12
71	雀坂橋	雀坂浦ノ谷線	1982	3.70	5.50	PC桁 RC床版	大字川崎	R7	II	R12
72	浦ノ谷橋	鍋藤浦ノ谷線	1982	3.10	7.30	PC桁RC床版	大字川崎	R7	II	R12
73	0069-1号橋	橋ヶ本祇園坂線	(1981)	2.15	3.90	RC床版	大字川崎	R7	I	R12
74	入口橋	太田鮎返線	1982	2.25	5.80	RC床版	大字川崎	R7	II	R12
75	太田堰橋	木城鮎返線	(1981)	3.10	7.00	プレキャストボックス	大字安真木	R7	II	R12
76	乱橋	門田内木城線	(1981)	4.60	5.70	RC床版	大字安真木	R3	III	R8
77	0075-1号橋	前川原後田線	(1981)	4.55	10.00	プレキャストボックス RC床版	大字安真木	R3	I	R8
78	土取橋	前川原市郎丸線	1982	2.50	9.50	RC床版	大字安真木	R3	II	R8
79	0076-1号橋	前川原市郎丸線	1982	4.33	5.95	RC床版	大字安真木	R3	II	R8
80	0076-2号橋	前川原市郎丸線	1982	2.15	5.90	RC床版	大字安真木	R3	I	R8
81	1006-1号橋	豊州小倉畔線	(1981)	2.00	4.20	RC床版	大字池尻	R3	I	R8
82	池尻橋	池尻野田線	1982	2.60	2.60	RC床版	大字池尻	R3	I	R8
83	1028-2号橋	平原大谷線	(1981)	4.45	4.80	RC床版	大字田原	R3	I	R8

橋梁諸元の一覧 (8 / 5)

健全性	I : 健全	II : 予防保全段階	III : 早期措置段階	IV : 緊急措置段階
-----	--------	-------------	--------------	-------------

番号	橋梁名称	路線名	架設年	橋長 m	全幅員 m	橋梁の種類	所在地	最新 点検年	橋梁の 健全性	次回 点検年
84	猪尻橋	猪尻猪尻集線	(1981)	3.05	6.20	RC床版	大字田原	R3	I	R8
85	1047-1号橋	西本町団地2号線	(1981)	2.45	4.70	RC床版	大字川崎	R3	I	R8
86	1047-2号橋	西本町団地2号線	(1981)	2.45	5.40	RC床版	大字川崎	R3	I	R8
87	1048-4号橋	水源池線	1982	2.30	5.95	RC床版	大字田原	R3	I	R8
88	1048-3号橋	水源池線	1982	3.50	4.45	RC床版	大字田原	R3	II	R8
89	1048-1号橋	水源池線	1982	5.50	4.55	RC床版	大字田原	R3	I	R8
90	号四郎橋	号四郎奥谷線	(1981)	3.05	8.05	場所打ボックス	大字田原	R3	I	R8
91	1054-1号橋	三井栄町線	(1981)	6.60	5.30	RC床版	大字田原	R3	I	R8
92	1063-1号橋	口ヶ坪楠木線	(1981)	7.45	10.20	RCT桁 RC床版	大字川崎	R3	I	R8
93	寺下2号橋	寺下町島廻線	(1981)	3.00	4.10	RC床版	大字川崎	R3	I	R8
94	劇場橋	溝添劇場線	(1981)	2.80	4.85	RC床版	大字川崎	R3	II	R8
95	1098-1号橋	溝添劇場線	(1981)	2.00	4.50	場所打ボックス	大字川崎	R3	I	R8
96	公園橋	公園入口吉原線	1982	5.80	9.20	場所打ボックス	大字川崎	R3	I	R8
97	米田橋	米田吉原線	1984	5.60	9.40	プレキャストボックス	大字川崎	R3	II	R8
98	1131-1号橋	猪尻石橋線	1989	2.55	16.35	RC床版	大字田原	R3	I	R8
99	1172-2号橋	本町駐車場内線	1993	7.00	6.60	RC床版	大字川崎	R3	I	R8
100	2009-1号橋	大人線	1982	2.00	5.45	RC床版	大字川崎	R3	I	R8
101	樋口ノ前橋	米田線	1982	5.75	14.60	RC床版	大字川崎	R3	I	R8
102	2022-1号橋	小大山大谷線	1982	3.55	4.50	RC床版	大字川崎	R3	I	R8
103	2030-1号橋	飛渡線	1982	2.75	4.20	RC床版	大字川崎	R3	I	R8
104	2032-1号橋	浦ノ谷村中線	(1981)	2.70	8.33	RC床版	大字川崎	R3	I	R8
105	2034-1号橋	八丁東川線	1982	3.00	8.85	RC床版	大字川崎	R3	II	R8
106	三枚田橋	東川村中線	(1981)	2.40	4.38	RC床版	大字川崎	R3	III	R8
107	古屋敷橋	古屋敷村中線	(1981)	2.00	4.90	RC床版	大字川崎	R3	I	R8
108	2054-1号橋	公門小畑線	(1981)	2.10	4.70	場所打ボックス	大字安真木	R3	I	R8
109	下ノ丸橋	下ノ丸上ノ丸線	1982	5.65	13.20	RC床版	大字安真木	R3	II	R8
110	上ノ丸橋	下ノ丸上ノ丸線	1982	4.50	5.50	RCT桁 RC床版	大字安真木	R3	III	R8

橋梁諸元の一覧 (9 / 5)

健全性 I:健全 II:予防保全段階 III:早期措置段階 IV:緊急措置段階										
番号	橋梁名称	路線名	架設年	橋長 m	全幅員 m	橋梁の種類	所在地	最新 点検年	橋梁の 健全性	次回 点検年
111	2060-1号橋	島ヶ本山内木城線	(1981)	2.85	4.30	RC床版	大字安真木	R3	I	R8
112	2078-1号橋	貴船後川内線	(1981)	2.20	5.10	RC床版	大字安真木	R3	III	R8
113	扇ノ前橋	岩鼻池尻駅線	(1981)	4.00	6.00	RC床版	大字池尻	R4	I	R9
114	0003-3号橋	岩鼻池尻駅線	(1981)	2.30	6.00	RC床版	大字池尻	R4	I	R9
115	永井村下橋	宮ノ前住吉線	1982	3.00	5.80	PC床版	大字川崎	R4	I	R9
116	0073-1号橋	門田内木城線	(1981)	2.10	9.80	RC床版	大字安真木	R4	I	R9
117	1034-1号橋	猪尻猪尻集線	(1981)	3.50	5.00	RC床版	大字田原	R4	I	R9
118	1043-1号橋	第二西川崎団地線	(1981)	2.50	9.30	RC床版	大字川崎	R4	I	R9
119	雁喰橋	新町線	1960	11.87	7.20	RC床版	大字川崎	R4	II	R9
120	八反田橋	櫛毛旧道線	(1981)	3.30	4.50	RC床版	大字川崎	R4	I	R9
121	奥谷橋	奥谷本町線	(1981)	3.10	5.60	RC床版	大字川崎	R4	I	R9
122	1079-1号橋	奥谷線	(1981)	3.20	8.30	RC床版	大字川崎	R4	I	R9
123	法印橋	法印橋島廻線	1982	4.40	6.10	RGT桁	大字川崎	R4	I	R9
124	東川橋	東川村中線	(1981)	2.20	4.20	RC床版	大字川崎	R4	I	R9
125	朝倉橋	朝倉小川原線	(1981)	4.60	5.40	RC床版	大字安真木	R4	II	R9
126	原橋	荒平方河原線	(1981)	5.90	7.40	場所打ボックス	大字安真木	R4	I	R9
127	第4号橋	十郎口黒木線	1967	5.70	3.60	RC床版	大字安真木	R4	II	R9
128	2106-1号橋	大日堤ノ下線	1985	5.30	5.90	RC床版	大字川崎	R4	I	R9
129	柿添橋	寺ノ前柿添線	1993	32.88	7.25	プレテン床版	大字田原	R4	I	R9
130	今地橋	寺ノ前柿添線	1993	2.20	6.20	RC床版	大字田原	R4	I	R9
131	川崎大橋	丸山本町陸橋線	2002	249.00	10.00	ポステン中空床版	大字川崎	R4	III	R9
132	藤枝橋	小倉畔上原線	1991	9.35	7.20	プレテン床版	大字池尻	R4	I	R9
133	一本松橋	公門原線	1983	18.64	5.15	プレテンI桁	大字田原	R7	I	R12

※橋歴不明の橋梁の架設年は、町道認定を行った1981年に定義している

- ・ 133 一本松橋 → 農道から町道へ移管されたため対象橋梁に追加
- ・ 32 真崎橋2号橋 → 町道廃止により対象橋梁から削除
- ・ 50 0001-1号橋 → 橋長2m以下のため対象橋梁から削除

4. 健全性の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

(1) 橋梁点検の徹底

①橋梁点検は、橋梁の架設年度や立地条件等を十分に考慮し、定期点検、日常点検、臨時点検を組み合わせて実施する。

- ・定期点検：5年に1回実施
- ・日常点検：日常的なパトロールにより実施
- ・臨時点検：集中豪雨や大規模地震などによる自然災害の直後に実施

②橋梁点検は国土交通省の最新要領に準じて行う。

また必要に応じて福岡県及び建設技術情報センターの要領を参考とする。

- ・橋梁定期点検要領 平成31年3月 国土交通省 道路局 国道・技術課
- ・橋梁定期点検要領 平成27年3月 福岡県 県土整備部 道路維持課
- ・管理者のための橋梁点検の手引き（案）H29.3（財）福岡県建設技術情報センター

（注）部材毎の損傷や劣化の状況から橋梁毎の対策区分を判定する際は、「橋梁定期点検要領（付録）」の「損傷評価基準と対象区分判定基準」を参考とする。

③橋梁点検は、定期点検および町職員による日常点検を基本とし、劣化や損傷が顕在化する前に機能を回復させる予防保全的な維持管理を行う。

(2) 日常点検の徹底

①日常点検は可能な限り桁下からも行い、塗装の劣化やコンクリートのひび割れ等、新たな「劣化や損傷」の「箇所と内容」を早期に把握する。

②橋面排水口の目詰まりや橋座の土砂や鳥の糞の堆積等を発見した場合は、速やかに清掃するよう努める。

(3) 点検履歴および補修補強履歴の記録

①橋梁点検で得られる損傷等の情報は、劣化要因の推定や劣化進行の予測を行うしつつ点検調書に記入し、記録として確実に残す。なお、「損傷なし」と「未調査」を混同することが無いよう記録する必要がある。

②補修、補強、耐震補強等の修繕工事を行う際は、併せて近接目視による点検も行い、修繕内容、修繕時期、工法の選定方法、工事記録等を記録として確実に残す。

(4) 技術力の向上と伝承

①町職員の技術力向上を図るために、橋梁の劣化損傷特性、点検技術手法、対策工法の選定に関する「技術講習会」に適宜参加する。

②橋梁点検、工事の設計、工事の管理を通じ、ベテラン技術者から若手技術者へ技術の伝承を図る。

5. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

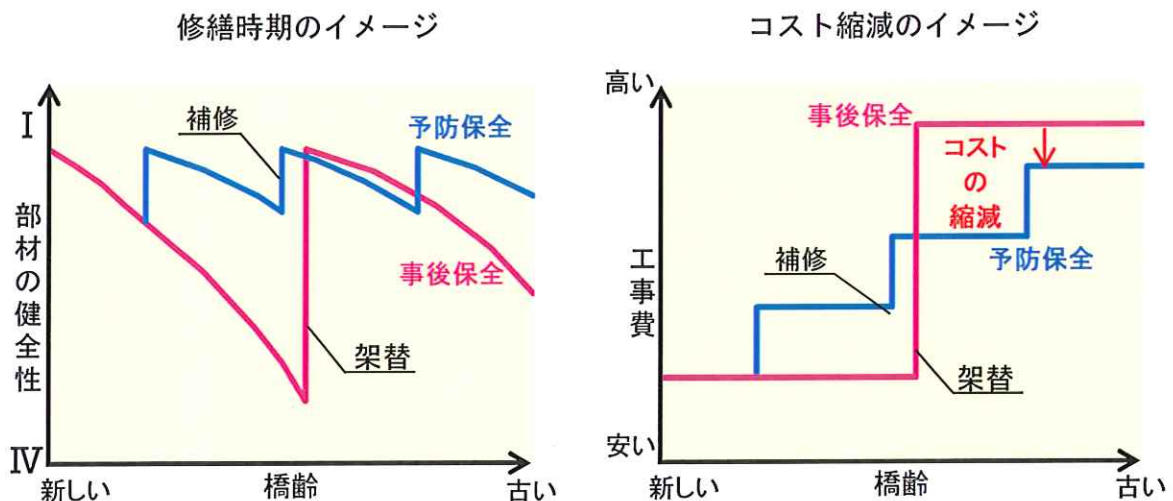
(1) 長寿命化及び費用の縮減に関する基本的な方針

橋梁個別施設計画に沿った計画的かつ予防保全的な維持管理を徹底することにより、全体的な事業費の大規模化および高コスト化を回避し、長期的な維持管理費の縮減を図ります。

【予防保全的】 損傷が小さなうちに予防的な対策を行うため、橋梁の寿命が長くなり維持管理費用を最小限に抑えられます。

【事後保全的】 損傷が大きくなってから対策を行うため、工事規模が大きくなり多大な費用が発生します。

【橋梁個別施設計画のイメージ図】



(2) 集約化・撤去に関する基本的な方針

対象橋梁の集約化・撤去を行うことで維持管理の負担を軽減し、コスト縮減効果や事業の効率を向上させます。

集約化・撤去の対象橋梁は、利用頻度、迂回路の有無、橋の健全性、将来の土地利用計画を総合的に検証し抽出します。

6. 新技術等の活用に関する基本的な方針

道路メンテナンス事業では、維持管理費の増加や将来人口の減少が見込まれる中、新技術等の活用促進による作業の負担軽減や事業の効率化、維持管理コストの縮減が求められます。

国土交通省では、橋梁の維持・修繕に係る新技術が「点検支援技術性能カタログ」及び「新技術情報提供システムNETIS」に掲載されており、新技術の活用による、点検費用、修繕費用、工期の縮減が期待されています。

今後は、従来工法のみでなく新工法や新材料などを加えた比較検討を行い、新技術の活用を促進します。

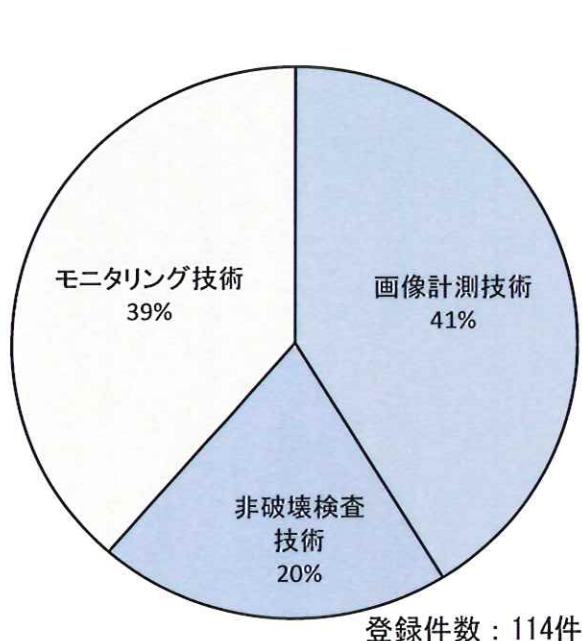


図6.1 点検支援技術性能カタログ
用途別の割合（2022年9月現在）

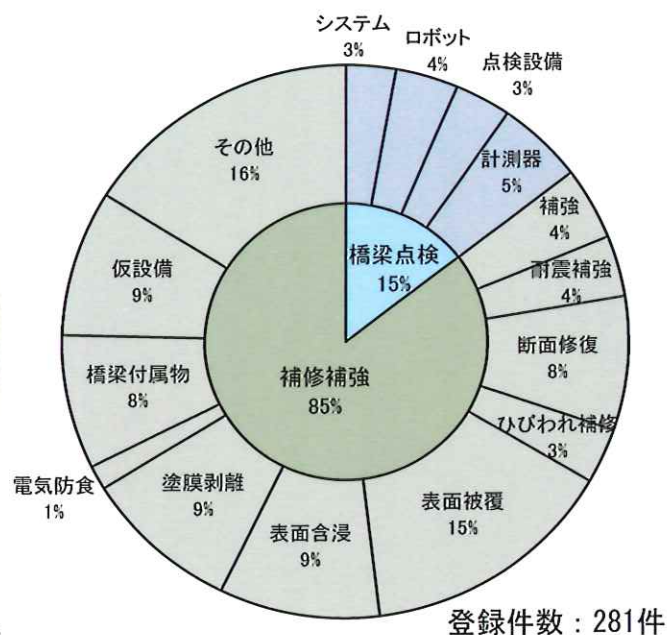


図6.2 新技術情報提供システムNETIS
用途別の割合（2022年10月3日現在）

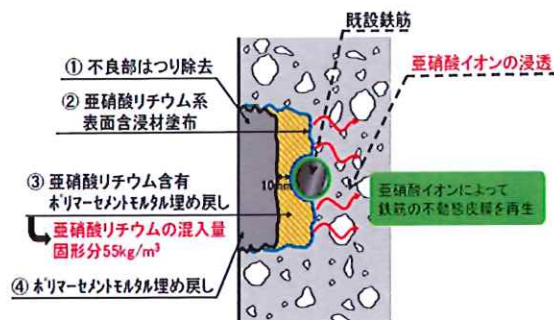
【新技術の登録事例】

3Dデータを活用した小型橋梁の点検
点検支援カタログ：BR010038-V0022



小型橋梁（床版橋・溝橋）の点検に適用
3Dモデルを作成し、橋梁の維持管理に活用

リハビリ断面修復工法
NETIS登録番号 CG-220003-A



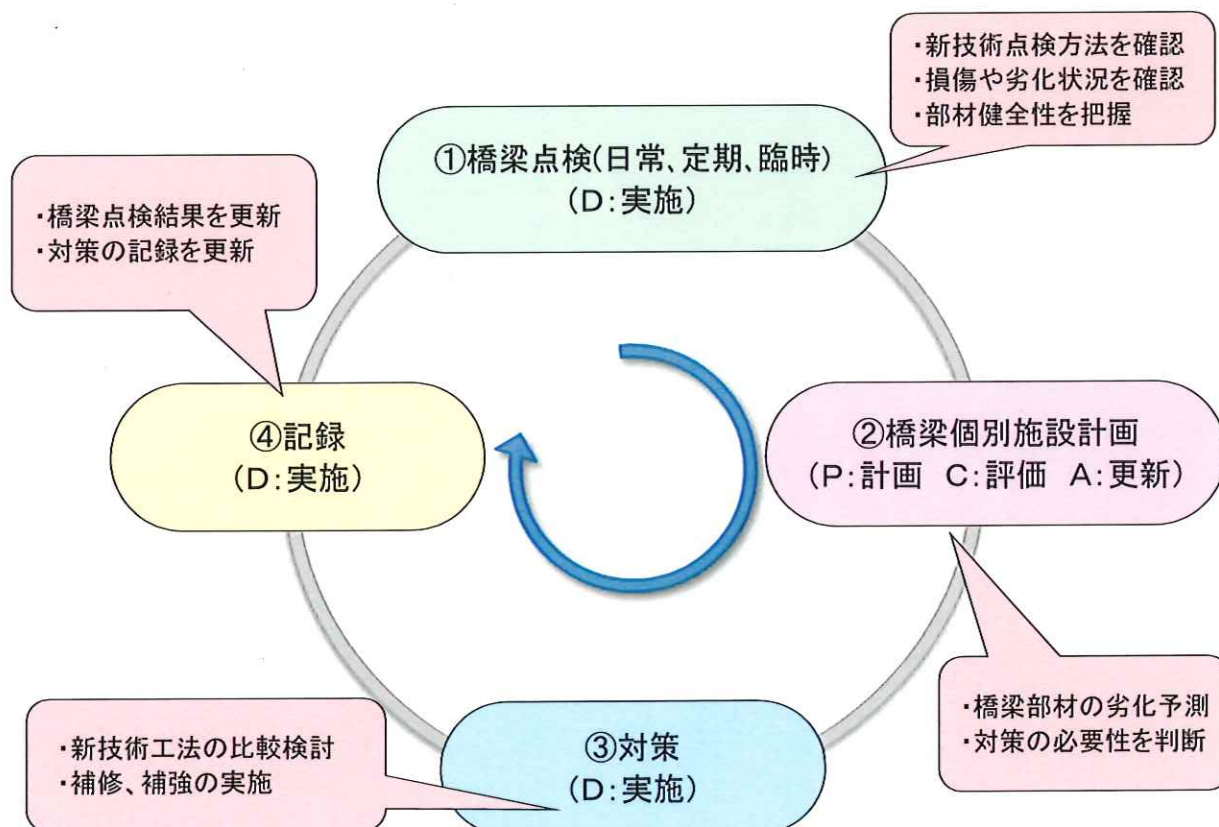
亜硝酸リチウムを混入した断面修復材を用いる工法
はつり深さを半分程度に抑えて作業手間を低減

7. 橋梁個別施設計画の流れ

橋梁個別施設計画は、橋梁部材の損傷や劣化状況に合った適切な補修補強等の修繕対策を実施できるよう、定期的に橋梁を点検し、実情にあった修繕計画の更新を行います。

① 橋梁個別施設計画に合わせて橋梁点検を行います。 橋の規模や状況に合わせて新技術が適用可能か確認します。 橋梁の損傷や劣化状況を確認し、部材の健全性を把握します。
② 橋梁点検結果に基づき、橋梁部材の劣化予測を行いつつ対策の必要性を判断します。 判定結果を踏まえ、橋梁個別施設計画を策定・更新します。
③ 橋梁個別施設計画に合わせて補修や補強などの対策工事を実施します。 事業効率化および費用縮減の観点から新技術の比較検討を行います。
④ 橋梁点検結果、補修・補強などの対策の記録を更新します。

【橋梁個別施設計画のサイクル】



8. 橋の健全性の評価と劣化予測

- (1) 橋の健全性は、修繕対策時期の指標として、部材の損傷種類や損傷程度から、Ⅰ（健全）～Ⅳ（緊急措置段階）の4段階で評価します。
- (2) 橋の劣化予測は50年後に健全性がⅣになると仮定します。

(1) 橋の健全性の評価

橋の健全性の診断は、部材単位毎の健全性の診断結果を踏まえて主要部材に着目して最も低い健全性の診断結果で代表させます。

健全性の診断において、構造物の性能に影響を及ぼす主要な部材は、桁、床版、橋台、橋脚、支承を示します。

表8 橋の健全性の区分

健全性		状態
健全 劣化	Ⅰ 健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
	Ⅱ 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずるのが望ましい状態
	Ⅲ 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
	Ⅳ 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、または生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

(2) 劣化予測

修繕、架替えに係る費用の縮減効果を算定する場合は、橋の架替時期や補修時期を劣化関数で想定する必要があります。

コンクリート部材の劣化関数は、精緻に設定することが困難なため、50年後に健全性がⅣに達すると仮定し直線の式で表します。

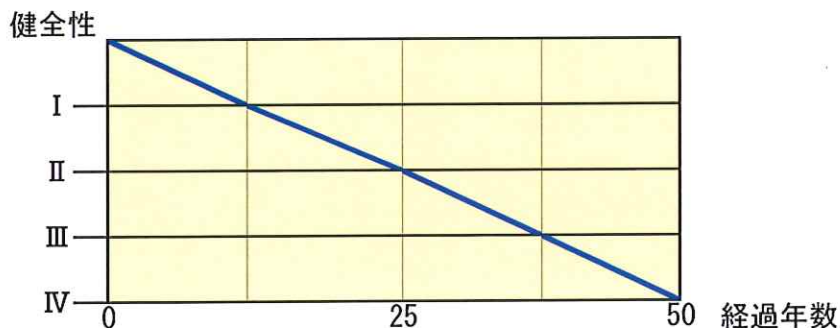


図8.1 コンクリート部材の劣化関数

鋼部材の劣化関数は、C 5系のフッ素樹脂塗料を想定し以下の式で表します。「2011デザインデータブック p.236」より

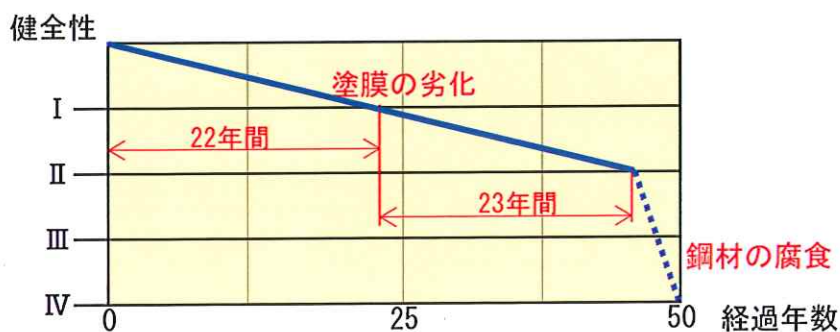


図8.2 鋼部材の劣化関数

9. 部材の健全性の考え方

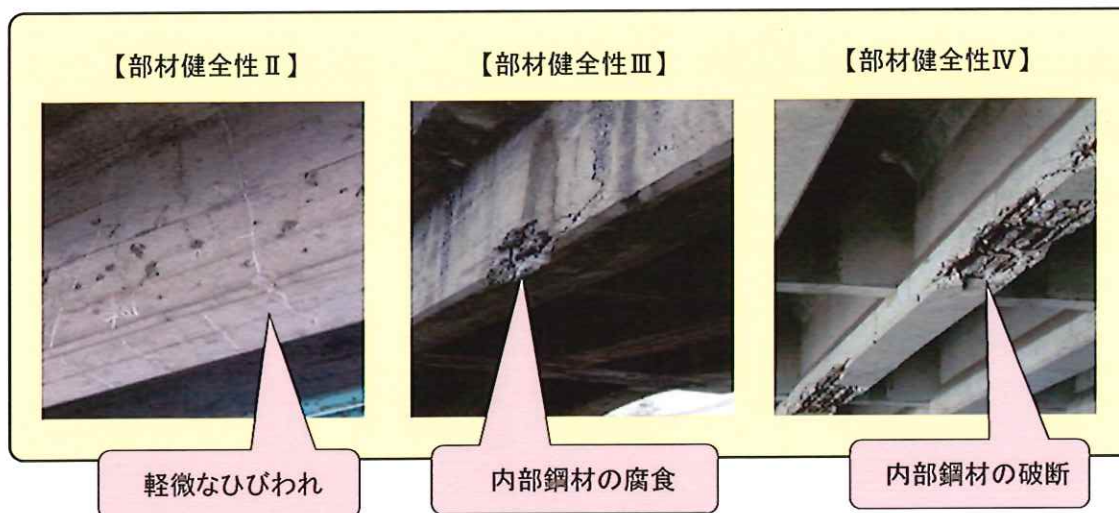
橋梁個別施設計画では、構成する部材の損傷や劣化の程度から「部材毎の健全性」を総合的に分析します。健全性は、国土交通省の「橋梁定期点検要領」に準じてⅠ～Ⅳに分類します。

Ⅰ：健全	Ⅱ：予防保全段階	Ⅲ：早期処置段階	Ⅳ：緊急処置段階
------	----------	----------	----------

●鋼部材の例（塗装劣化・鋼材腐食）



●コンクリート部材の例（ひびわれ、剥離・鉄筋露出）



●その他の着目部位

亀裂、鉄筋露出、路面の凹凸、支承の機能障害、下部工の変状など

10. 管理水準の設定

今後の維持管理では、「予防保全型」の維持管理手法を適用し、全体的な健全性が「Ⅱ：予防保全段階」を下回らないよう取り組みます。

「予防保全型」の管理水準は、損傷が小さいうちに早めの修繕を行うよう、健全性Ⅱの下限値に達した直後に設定します。

表10 管理水準

健全  劣化	I：健全	
	Ⅱ：予防保全段階	
	Ⅲ：早期措置段階	↑ 予防保全型の管理水準
	Ⅳ：緊急措置段階	

【参考】

経済性を比較する際の「事後保全型」の管理水準は、損傷が大きくなってからの架替えを想定するため、健全性が「Ⅳ：緊急措置段階」に達した時点とします。

1 1. 措置優先順位の設定

- ・対策が必要と判断された橋梁については、健全性ランクと社会的影響度に応じた措置優先順位の設定を行います。
- ・措置優先順位を設定することで、単年度の修繕費が予算を超過しないよう、修繕時期の調整による平準化を図り、事業効率の向上を目指します。

橋梁の措置優先順位は、健全性、社会的影響度、総合的個別条件を考慮して設定します。

橋梁の健全性や社会的影響度の評価が同じ場合は、総合個別の点数の高い橋の措置を優先します。

健全性Ⅳの橋梁は、緊急措置段階のため、措置優先順位の設定から省きます。

措置優先順位の設定は「市町村における個別施設計画（橋梁）の手引き(案)」に準じます。

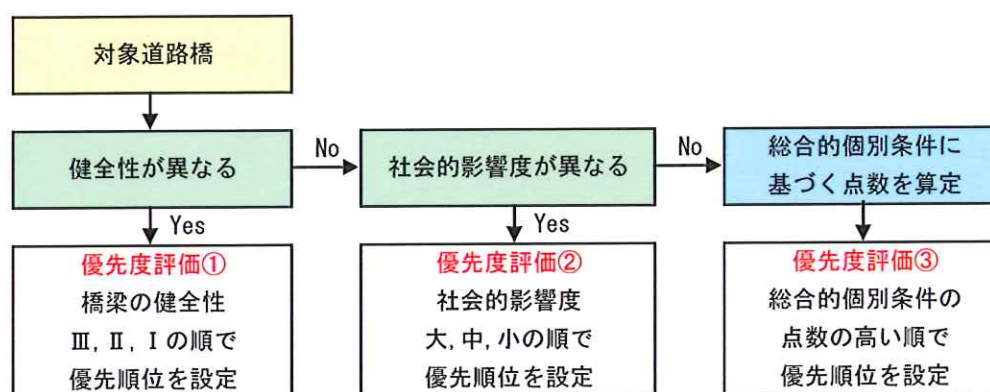


図11 措置優先順位設定の手順

表11.1 措置優先順位の設定例

橋梁名	橋梁の健全性	社会的影響度	総合個別点数	措置優先順位
A	Ⅲ	大	32	1
B	Ⅲ	中	28	2
C	Ⅲ	中	26	3
D	Ⅱ	中	27	4
E	Ⅱ	小	25	5
F	Ⅱ	小	22	6
G	Ⅰ	大	24	7

※総合個別点数の算定は次頁の表11.3～11.5を参照。

表11.2 社会的影響度に着目した橋の分類

社会的影響度	大	中	小
分類条件	①跨道橋 ②跨線橋	①道路種別が1級または2級の町道 ②橋長 $L \geq 15m$ 程度の橋 ③迂回路無し（橋長 $L \geq 5m$ 程度） ④「社会的影響度大の橋」以外で第三者被害の影響が考えられる橋（桁下を駐輪場や駐車場および公園等に利用）	左記以外

表11.3 総合的個別条件にもとづく算出指標

区分	指標	配点	判定基準	点数	摘要
① 部材健全性		50	健全性：高→	低	
② 進行リスク	経過年数 (塩害あり)	20	51年以上	20	※1
			41～50年	14	※2
			31～40年	8	※3
			21～30年	4	
			11～20年	2	
			0～10年	0	
	経過年数 (塩害なし)		51年以上	10	
			41～50年	7	
			31～40年	4	
			21～30年	2	
			11～20年	1	
			0～10年	0	
③ 第三者被害に 対する影響度	交差物件等	10	鉄道	10	
			道路	6	
			駐輪場等	3	※4
			上記以外	0	
④ 路線重要度	道路種別	5	1級、2級	5	
			その他	0	
	迂回路	5	無（L≧5m）	5	※5
			無（L<5m）	0	※6
			有	0	
⑤ 橋の規模	橋長	10	L≧15m	10	※7
			L<15m	5	
総合優先度の合計点 100 点					
※1 経過年数	不明な場合は、同路線の前後の橋から概ねの経過年数を推定				
※2 塩害地域	海岸部から200m以内、感潮区間、凍結防止剤散布の地域				
※3 特殊な劣化環境	科学的腐食が想定される温泉地や産炭地				
※4 駐輪場等	第三者被害が想定される駐輪場、駐車場、公園等の桁下環境				
※5 迂回路「無」	迂回路「無」は落橋時に孤立状態となる民家がある場合				
※6 橋長5m未満	災害時の応急復旧が容易な橋梁				
※7 橋長15m未満	比較的容易に復旧が可能な橋梁				

$$\text{①部材健全性に着目した優先度の点数} = \frac{\sum (\text{重み係数} \times \text{健全性の点数})}{\text{該当部材の重み係数の和}}$$

表11.4 部材の重み係数

対象部材	重み係数
上部工	主桁
	横桁
	床版
下部工	橋台、橋脚
支承部	支承
その他	高欄・地覆等

表11.5 部材健全性の配点

健全性	点数
I	10
II	30
III	50

12. 工事費算出と対策工法選定の方針

- (1) 予防保全型の費用は、健全性が「Ⅱ」を下回った段階で補修するものとして計上します。
- (2) 事後保全型の費用は、健全性が「Ⅳ」に達した段階で架替えるものとして計上します。
- (3) 対策実施後は健全性が「Ⅰ」に回復するものと考えます。

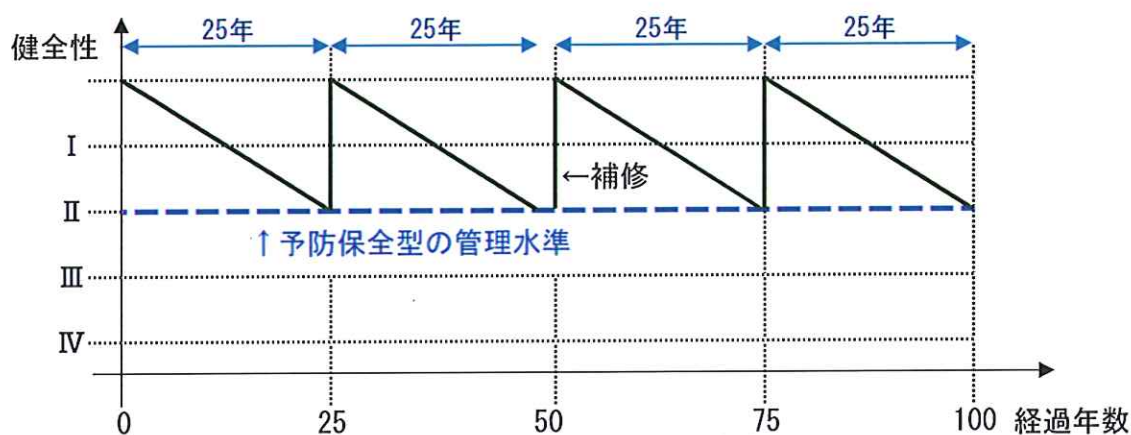


図12.1 対策時期の概念図（予防保全型）

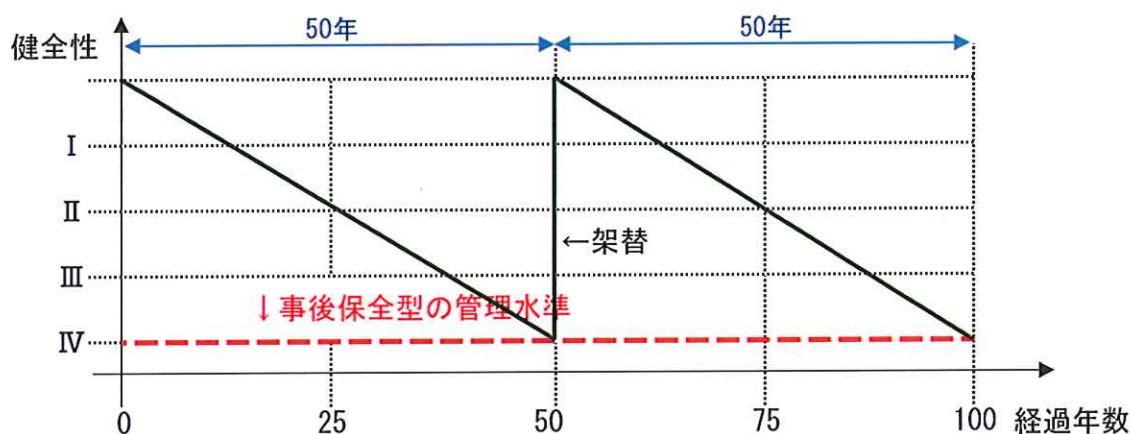


図12.2 対策時期の概念図（事後保全型）

※コンクリート部材の工事費算出のための対策工法は、比較的施工実績の多い、表面含浸工、ひびわれ注入工、断面修復工を組み合わせで設定します。

表12 対策工法（コンクリート主桁の例）

健全性	対策工法	補修費率	維持管理の手法
Ⅰ 健全			—
Ⅱ 予防保全段階	表面被覆 ひびわれ注入 断面修復	100% 20% 10%	予防保全型
Ⅲ 早期措置段階	表面被覆 ひびわれ注入 断面修復	100% 40% 50%	予防保全型
Ⅳ 緊急措置段階	架け替え	100%	事後保全型

※補修数量は、対象部材の数量に補修費率を掛けることで算出します。

13. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替時期

橋梁個別施設計画の対策期間は令和5年度（2023年）～令和14年度（2032年）の10年間とします。

以下に年度毎の対策橋梁数及び対策実施橋梁を示す。

表13.1 年度毎の対策橋梁数

（単位：橋）

項目	対策年次										計
	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	
点検	-	36	38	37	20	-	36	38	37	20	262
設計	3	2	-	1	-	-	-	-	-	-	6
修繕	-	2	2	-	1	-	-	-	-	-	5

表13.2 年度毎の概算事業費

（単位：百万円）

項目	対策年次										計
	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	
点検	-	8.6	6.2	1.5	11.8	-	8.6	6.2	1.5	11.8	56.2
設計	17.0	12.5	-	4.5	-	-	-	-	-	-	34.0
修繕	-	123.2	94.0	-	147.2	-	-	-	-	-	364.4
計	17.0	#####	#####	6.0	159.0	-	8.6	6.2	1.5	11.8	454.6

※橋梁毎の修繕内容及び対策時期は、次頁の【様式1-2】を参照

表13.3 年度毎の対策実施橋梁

対策年次	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027
設計・調査	29 宮の前橋 36 真崎橋 44 前牟田橋	36 真崎橋 133 一本松橋		131 川崎大橋 8 1092-1号橋 28 冥加塚橋	
修繕工事		29 宮の前橋 44 前牟田橋	36 真崎橋 133 一本松橋		131 川崎大橋 8 1092-1号橋 28 冥加塚橋

【様式1-2】

凡例（修繕）：↔ 対策を実施すべき時期を示す。

健全性	I：健全	II：予防保全段階	III：早期措置段階	IV：緊急措置段階
-----	------	-----------	------------	-----------

番号	橋梁名	路線名	橋長 (m)	架設 年	供用 年数	最新 点検 年次	対策の内容・時期									
							R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032
1	畑田橋	変電所成谷線	2.5	(1981)	41	R6		点検					点検			
2	0070-1号橋	太田鮎返線	3.0	1982	40	R6		点検					点検			
3	馬小淵上橋	川崎三井線	7.8	1993	29	R6		点検					点検			
4	1023-1号橋	岩鼻内山線	10.9	1991	31	R6		点検					点検			
5	馬小淵橋	雁喰馬小淵線	12.2	1997	25	R6		点検					点検			
6	丸山橋	西本町丸山線	13.0	1962	60	R6		点検					点検			
7	吉原橋	小大山旧道線	9.6	(1981)	41	R6		点検					点検			
8	1092-1号橋	大峰小学校線	8.0	(1981)	41	R6		点検		設計	工事		点検			
9	119-1号橋	口ヶ坪線	7.8	1985	37	R6		点検					点検			
10	吉原橋(2号)	本町米田線	7.9	1991	31	R6		点検					点検			
11	新吉原橋	本町米田線	14.5	1990	32	R6		点検					点検			
12	1172-1号橋	本町駐車場内線	7.2	1993	29	R6		点検					点検			
13	黒木下橋	荒平方河原線	5.9	1998	24	R6		点検					点検			
14	黒木橋	荒平方河原線	9.2	1998	24	R6		点検					点検			
15	八熊橋	八熊寺ノ谷線	14.4	1983	39	R6		点検					点検			
16	馬場橋	貴船大井手線	14.1	1983	39	R6		点検					点検			
17	寺の谷橋	貴船後川内線	13.0	1977	45	R6		点検					点検			
18	水車橋	貴船後川内線	11.0	(1981)	41	R6		点検					点検			
19	神橋	大井手チエ線	14.7	1979	43	R6		点検					点検			
20	2082-1号橋	十郎口黒木線	8.0	1982	40	R6		点検					点検			
21	第2号橋	十郎口黒木線	8.0	1965	57	R6		点検					点検			
22	第3号橋	十郎口黒木線	8.6	1966	56	R6		点検					点検			
23	2082-5号橋	十郎口黒木線	8.7	1982	40	R6		点検					点検			
24	2098-1号橋	高見団地成谷線	7.0	1983	39	R6		点検					点検			
25	2115-1号橋	小ヶ倉線	7.3	1985	37	R6		点検					点検			
26	新屋橋	不動戸頃線	9.5	2004	18	R6		点検					点検			
27	中村橋	田原後藤寺線	34.4	1993	29	R6		点検					点検			
28	冥加塚橋	西川馬ヶ鼻線	19.6	1983	39	R6		点検		設計	工事		点検			
29	宮の前橋	西川東川線	40.0	1977	45	R7	設計 表面含浸	工事 ひび割れ注入	点検 断面修復					点検		
30	前川原橋	上豊川真崎線	30.8	1995	27	R6		点検					点検			
31	新雁喰橋	川崎荒平線	21.2	1994	28	R6		点検					点検			
33	坪池橋	戸井ノ口大豊線	25.3	1997	25	R6		点検					点検			
34	住吉橋	太田鮎返線	26.9	1987	35	R6		点検					点検			
35	鮎返橋	東川鮎返線	27.1	1972	50	R6		点検					点検			
36	真崎橋	旧県道線	30.0	1927	95	R6	調査・設計	点検・設計	工事 表面含浸	ひび割れ注入	断面修復		点検			

【様式1－2】

凡例（修繕）：↔ 対策を実施すべき時期を示す。

健全性	I：健全	II：予防保全段階	III：早期措置段階	IV：緊急措置段階
-----	------	-----------	------------	-----------

番号	橋梁名	路線名	橋長 (m)	架設 年	供用 年数	最新 点検 年次	対策の内容・時期									
							R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032
37	柏木橋	上真崎宮ノ前線	29.3	1971	51	R6		点検					点検			
38	神乃前橋	神ノ前大出来線	17.8	1987	35	R7			点検					点検		
39	2号橋	水源池線	25.1	1971	51	R7			点検					点検		
40	新丸山橋	丸山楠本線	16.5	1991	31	R7			点検					点検		
41	弓折陸橋	大峰宝町線	17.2	1988	34	R7			点検					点検		
42	西田原橋	合ノ本寺田線	43.1	1982	40	R7			点検					点検		
43	第2馬小淵橋	馬小淵打越線	27.7	1988	34	R7			点検					点検		
44	前牟田橋	前牟田橋石ケ坪線	29.8	1982	40	R7	設計	工事	点検	表面含浸&ひび割れ注入&断面修復						
45	公門橋	公門小畑線	27.7	2003	19	R7			点検					点検		
46	2066-1号橋	轡井手線	19.5	1979	43	R7			点検					点検		
47	酒屋渡橋	中組小畑線	25.2	2000	22	R7			点検					点検		
48	上真崎橋	上真崎当時迫線	31.9	1993	29	R7			点検					点検		
49	馬ヶ鼻橋	池尻小学校馬ヶ鼻線	29.9	1976	46	R7			点検					点検		
51	0001-2号橋	田原後藤寺線	3.6	(1981)	41	R7			点検					点検		
52	0003-1号橋	岩鼻池尻駅線	2.6	(1981)	41	R7			点検					点検		
53	岩鼻橋	岩鼻池尻駅線	4.1	(1981)	41	R7			点検					点検		
54	岩鼻二号橋	岩鼻池尻駅線	2.2	(1981)	41	R7			点検					点検		
55	0008-1号橋	奥谷島廻線	2.5	(1981)	41	R7			点検					点検		
56	共同橋	本町島廻線	3.4	(1981)	41	R7			点検					点検		
57	吐合橋	本町吉原線	2.7	(1981)	41	R7			点検					点検		
58	0012-1号橋	東豊西川線	3.0	(1981)	41	R7			点検					点検		
59	小大山橋	米田東川線	4.7	1982	40	R7			点検					点検		
60	13-1号橋	米田東川線	3.4	1982	40	R7			点検					点検		
61	0014-1号橋	上豊州真崎線	2.7	(1981)	41	R7			点検					点検		
62	0014-2号橋	上豊州真崎線	2.3	(1981)	41	R7			点検					点検		
63	0014-3号橋	上豊州真崎線	2.4	(1981)	41	R7			点検					点検		
64	宮ヶ坪橋	小倉畔東麦田線	3.8	(1981)	41	R7			点検					点検		
65	松ノ木橋	松ノ木後藤寺線	3.0	(1981)	41	R7			点検					点検		
66	土田橋	鎮西原原方線	2.6	(1981)	41	R7			点検					点検		
67	中田原橋	戸井ノ口大豊線	3.7	(1981)	41	R7			点検					点検		
68	0058-1号橋	田原西川線	2.8	(1981)	41	R7			点検					点検		
69	獅子場橋	芦毛永井線	3.1	1982	40	R7			点検					点検		
70	小松ヶ池橋	米田上真崎線	4.6	1982	40	R7			点検					点検		
71	雀坂橋	雀坂浦ノ谷線	3.7	1982	40	R7			点検					点検		
72	浦ノ谷橋	鍋藤浦ノ谷線	3.1	1982	40	R7			点検					点検		

【様式1－2】

凡例（修繕）：↔ 対策を実施すべき時期を示す。

健全性	I：健全	II：予防保全段階	III：早期措置段階	IV：緊急措置段階
-----	------	-----------	------------	-----------

番号	橋梁名	路線名	橋長 (m)	架設 年	供用 年数	最新 点検 年次	対策の内容・時期									
							R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032
73	0069-1号橋	橋ヶ本祇園坂線	2.2	(1981)	41	R7			点検					点検		
74	入口橋	太田點返線	2.3	1982	40	R7			点検					点検		
75	太田堰橋	木城點返線	3.1	(1981)	41	R7			点検					点検		
76	乱橋	門田内木城線	4.6	(1981)	41	R3	R4 工事済			点検					点検	
77	0075-1号橋	前川原後田線	4.6	(1981)	41	R3				点検					点検	
78	土取橋	前川原市郎丸線	2.5	1982	40	R3				点検					点検	
79	0076-1号橋	前川原市郎丸線	4.3	1982	40	R3				点検					点検	
80	0076-2号橋	前川原市郎丸線	2.2	1982	40	R3				点検					点検	
81	1006-1号橋	豊州小倉畔線	2.0	(1981)	41	R3				点検					点検	
82	池尻橋	池尻野田線	2.6	1982	40	R3				点検					点検	
83	1028-2号橋	平原大谷線	4.5	(1981)	41	R3				点検					点検	
84	猪尻橋	猪尻猪尻集線	3.1	(1981)	41	R3				点検					点検	
85	1047-1号橋	西本町団地2号線	2.5	(1981)	41	R3				点検					点検	
86	1047-2号橋	西本町団地3号線	2.5	(1981)	41	R3				点検					点検	
87	1048-4号橋	水源池線	2.3	1982	40	R3				点検					点検	
88	1048-3号橋	水源池線	3.5	1982	40	R3				点検					点検	
89	1048-1号橋	水源池線	5.5	1982	40	R3				点検					点検	
90	号四郎橋	号四郎奥谷線	3.1	(1981)	41	R3				点検					点検	
91	1054-1号橋	三井栄町線	6.6	(1981)	41	R3				点検					点検	
92	1063-1号橋	口ヶ坪楠木線	7.5	(1981)	41	R3				点検					点検	
93	寺下2号橋	寺下町島廻線	3.0	(1981)	41	R3				点検					点検	
94	劇場橋	溝添劇場線	2.8	(1981)	41	R3				点検					点検	
95	1098-1号橋	溝添劇場線	2.0	(1981)	41	R3				点検					点検	
96	公園橋	公園入口吉原線	5.8	1982	40	R3				点検					点検	
97	米田橋	米田吉原線	5.6	1984	38	R3				点検					点検	
98	1131-1号橋	猪尻石橋線	2.6	1989	33	R3				点検					点検	
99	1172-2号橋	本町駐車場内線	7.0	1993	29	R3				点検					点検	
100	2009-1号橋	大人線	2.0	1982	40	R3				点検					点検	
101	樋口ノ前橋	米田線	5.8	1982	40	R3				点検					点検	
102	2022-1号橋	小大山大谷線	3.6	1982	40	R3				点検					点検	
103	2030-1号橋	飛渡線	2.8	1982	40	R3				点検					点検	
104	2032-1号橋	浦ノ谷村中線	2.7	(1981)	41	R3				点検					点検	
105	2034-1号橋	八丁東川線	3.0	1982	40	R3				点検					点検	
106	三枚田橋	東川村中線	2.4	(1981)	41	R3	R4 工事済			点検					点検	
107	古屋敷橋	古屋敷村中線	2.0	(1981)	41	R3				点検					点検	

【様式1－2】

凡例（修繕）：  対策を実施すべき時期を示す。

健全性	I：健全	II：予防保全段階	III：早期措置段階	IV：緊急措置段階
-----	------	-----------	------------	-----------

番号	橋梁名	路線名	橋長 (m)	架設 年	供用 年数	最新 点検 年次	対策の内容・時期										
							R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	
108	2054-1号橋	公門小畑線	2.1	(1981)	41	R3				点検					点検		
109	下ノ丸橋	下ノ丸上ノ丸線	5.7	1982	40	R3				点検					点検		
110	上ノ丸橋	下ノ丸上ノ丸線	4.5	1982	40	R3	R4 工事済			点検					点検		
111	2060-1号橋	島ヶ本山内木城線	2.9	(1981)	41	R3				点検					点検		
112	2078-1号橋	貴船後川内線	2.2	(1981)	41	R3	R3 工事済			点検					点検		
113	扇ノ前橋	岩鼻池尻駅線	4.0	(1981)	41	R4					点検					点検	
114	0003-3号橋	岩鼻池尻駅線	2.3	(1981)	41	R4					点検					点検	
115	永井村下橋	宮ノ前住吉線	3.0	1982	40	R3					点検					点検	
116	0073-1号橋	門田内木城線	2.1	(1981)	41	R4					点検					点検	
117	1034-1号橋	猪尻猪尻集線	3.5	(1981)	41	R4					点検					点検	
118	1043-1号橋	第二西川崎団地線	2.5	(1981)	41	R4					点検					点検	
119	雁喰橋	新町線	11.9	1960	62	R4					点検					点検	
120	八反田橋	櫛毛旧道線	3.3	(1981)	41	R4					点検					点検	
121	奥谷橋	奥谷本町線	3.1	(1981)	41	R4					点検					点検	
122	1079-1号橋	奥谷線	3.2	(1981)	41	R4					点検					点検	
123	法印橋	法印橋島廻線	4.4	1982	40	R4					点検					点検	
124	東川橋	東川村中線	2.2	(1981)	41	R4					点検					点検	
125	朝倉橋	朝倉小川原線	4.6	(1981)	41	R4					点検					点検	
126	原橋	荒平方河原線	5.9	(1981)	41	R4					点検					点検	
127	第4号橋	十郎口黒木線	5.7	1967	55	R4					点検					点検	
128	2106-1号橋	大日堤ノ下線	5.3	1985	37	R4					点検					点検	
129	柿添橋	寺ノ前柿添線	32.9	1993	29	R4					点検					点検	
130	今地橋	寺ノ前柿添線	2.2	1993	29	R4					点検					点検	
131	川崎大橋	丸山本町陸橋線	249.0	2002	20	R4				設計	点検 工事	表面含浸&ひび割れ注入					点検
132	藤枝橋	小倉畔上原線	9.4	1991	31	R4					点検					点検	
133	一本松橋	公門原線	18.6	1983	39	R7		設計	点検 工事	表面含浸&ひび割れ注入&断面修復				点検			

※設計、補修工事を実施しない橋梁は監視対象とする

1 4. 橋梁個別施設計画による効果

14.1 費用の縮減効果

橋梁個別施設計画を策定した橋梁は、計画的かつ予防的な修繕対策により、概ね100年以上を目標とした長寿命化が見込まれます。
計131橋の今後50年間の事業費を比較すると、従来の**事後保全型は86億円**、**予防保全型は31億円**となり、**コスト縮減効果は55億円**となります。
また、損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性や信頼性が確保されます。

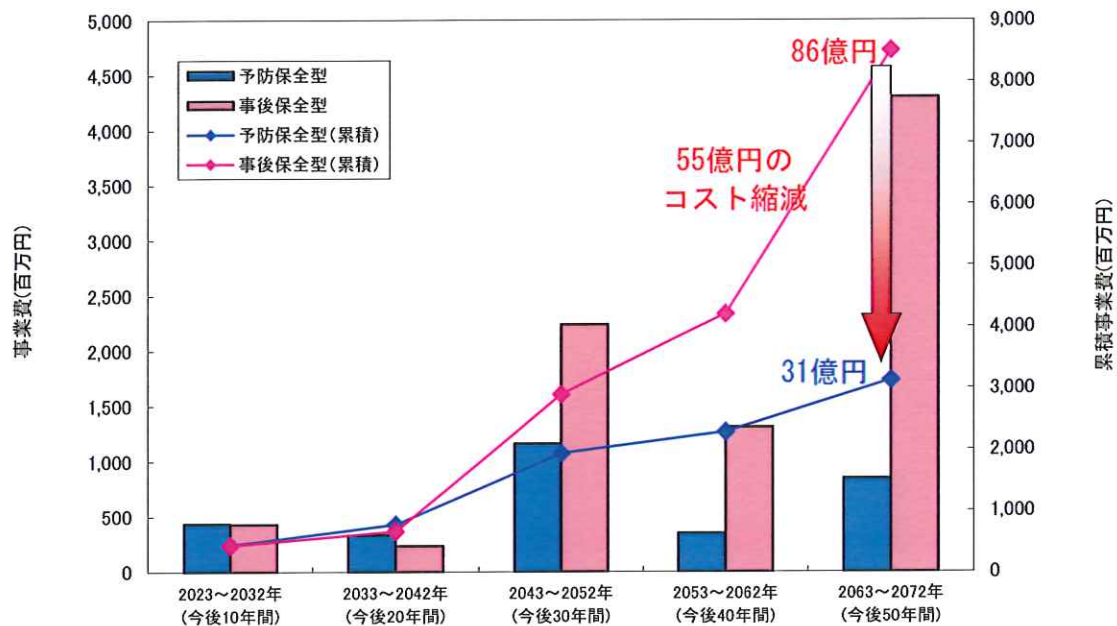


図14 今後50年間の事業費の推移

14.2 集約化・撤去に伴う費用縮減効果

集約化・撤去は、無理なく活用できる隣接ルートを確認できる計2橋を対象とし、令和9年度までの実施を目指します。

対象とする2橋は、将来の橋梁点検や補修対応の負担が軽減され、中長期的に約1,740万円のコスト縮減効果が期待されます。

14.3 新技術等の活用に伴う費用縮減効果

令和9年度までの5年間で実施する橋梁定期点検の計131橋および修繕工事する計5橋のうち2割程度の橋梁については、新技術を組み合わせ活用することで、点検費として約100万円、修繕工事費として約800万円のコスト縮減効果を目指します。

新技術の選定

①貼ってはがせるクラックスケール「Hurry」



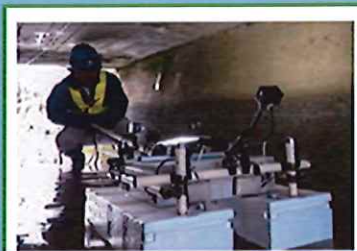
旧NETIS登録番号：GS-160040-A
クラックスケールを張ることで経過観察の精度が向上し、2巡目点検以降の作業手間が軽減されます。

②合マーク用マーカー 消えま線



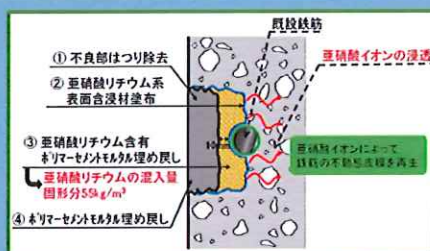
NETIS登録番号：CB-220008-A
耐性の強いチョーキングにより、2巡目点検以降の作業手間が軽減されます。

③3Dデータを活用した小型橋梁の点検・変状調査



点検支援カメラ：BR010038-V0022
桁下空間が狭い溝橋を想定
小型カメラを搭載した撮影装置の使用で3Dモデルの作成が可能。

④亜硝酸リチウム併用型断面修復工法



NETIS登録番号：CG-220003-A
はつり量やモルタル使用量が減少し
作業手間と工事費が削減されます。

15. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

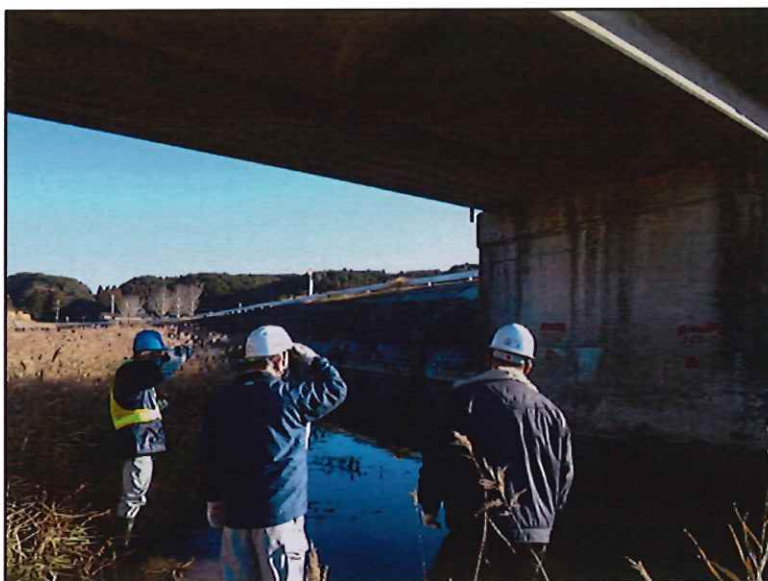
橋梁個別施設計画の策定に際し、有識者の有益な助言を得る場として、「学識経験者の意見聴取」の場を設けました。

意見聴取会では、修繕対応の再評価を行い、維持管理の仕組みが確実に機能していることを確認いたしました。

- | |
|--|
| <p>1) 計画策定担当部署
川崎町役場 事業課 tel : 0947-72-3000</p> <p>2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者
九州工業大学 大学院 工学研究院
建設社会工学研究系 山口栄輝 教授</p> |
|--|



【意見聴取風景】



【現地指導風景】

16. 参考文献

- ① (財) 福岡県建設技術情報センター
 - ・市町村における個別施設計画（橋梁）策定の手引き（案）平成29年3月
 - ・管理者のための橋梁点検の手引き（案）平成29年3月
- ② 国土交通省道路局国道・技術課
 - ・橋梁定期点検要領 平成31年3月
- ③ 福岡県県土整備部道路維持課
 - ・橋梁定期点検要領 平成27年3月

17. 用語の定義

- ① 予防保全型
継続的で計画的な維持管理により、損傷・劣化が軽微な段階で性能回復を図る維持管理の手法。
- ② 事後保全型
損傷や劣化が顕著になってから、大規模補修や架け替えにより道路機能の回復を図る維持管理の手法。
- ③ 橋の健全性
橋梁主要部材単位毎の損傷や劣化状況の中で最も厳しい診断結果で代表させた指標。
（「Ⅰ：健全」～「Ⅳ：緊急措置段階」の4段階）
- ④ 管理水準
管理橋梁が確保すべき性能（健全性）の目標値。
- ⑤ 対策
橋梁の集約化・撤去、修繕、架替え、監視等を行うこと。